

## 2024年度 和光大学 自己点検・評価結果について

和光大学 自己点検・自己評価委員会

### 基準1 理念・目的

- ・ 初代学長・梅根悟が示した「自由な研究と学習の共同体」という理念に基づき、「人文的・社会的教養と新時代の知見・技術とが調和し統一した人間の育成」および「社会の発展と文化の進展に寄与する」ことを目的に定めている。目的は「大学学則」および「大学院学則」に明記し、大学 WEB サイトや『大学案内』等を通して、広く学内外に公表している。
- ・ 2014年に第二次未来構想会議が2025年までの大学発展のあり方をまとめた答申と同年12月に示された「学長見解」とをあわせて指針とし、理念・目的の実現に向けた取り組みを進めている。この指針に基づいて「和光学園中期計画(2025年度～2029年度)」の大学部門を策定し、「和光大学中期計画」として大学 WEB サイトで公表している。

### 基準2 内部質保証

- ・ 1年単位のPDCAサイクルによる点検・改善を次の通り実施している。1)毎年度末に各学部、研究科、各種委員会、各事務部局が改善報告を、IR委員会が「授業アンケート」と学習成果の分析報告を、学長室会議が中期計画の実施状況報告を、各部局の責任者が自己点検・自己評価委員会から求められた特定項目の点検結果を、自己点検・自己評価委員会に提出する。2)自己点検・自己評価委員会が各報告の分析・評価を行う。3)自己点検・自己評価委員会の分析・評価を踏まえ、学長室会議が各学部、研究科、各種委員会へ改善指示を行う。4)新年度始に各学部、研究科、各種委員会は学長室会議からの改善指示を踏まえ新年度の改善目標を策定し、自己点検・自己評価委員会に報告する。

### 基準3 教育研究組織

- ・ 理念・目的の実現に向けて、各学部、研究科、各種委員会、センター、フォーラムを設置している。各教育研究組織の適切性については、全学教授会、各学部教授会、大学院研究科委員会が、教育課程の見直しや学科等の改編等の対応を行い、学長室会議を中心とした内部質保証体制のもとで点検・評価を組織的に行っている。
- ・ PDCAサイクルにおいては、各組織の改善目標を設定し、達成度のチェックを行うことを通じて、大学組織全体の適切性について学長室会議において確認している。また2023年度より、各部長が1年に1度各組織の適切性について点検を行い、自己点検・自己評価委員会に報告し、学長室会議において改善の必要性について検討を行っている。
- ・ 各種センター、フォーラム等については、全学的な視点での教育研究組織の適切性について、自己点検・自己評価委員会および学長室会議において検証を行っている。

### 基準4 教育課程・学習成果

- ・ 学位授与方針は、大学および大学院の方針を定め、各学部、研究科において授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能等の学習成果を示した方針を定め、大学 WEB サイトで公表している。なお、大学院においては、心理学専攻のみとなったことに伴い、2024年度に学位授与方針の改定を行った。
- ・ 教育課程編成方針は、大学および大学院の方針を定め、各学部、研究科において授与する学位ごとに、大学 WEB サイトで公表している。なお大学院においては、心理学専攻のみとなったことに伴い、2024年度に教育課程編成方針の改定を行った。

- ・卒業・修了のための具体的な要件、カリキュラムの順次性・体系性、各科目の単位数等を『学修の手びき』等で明示し、各カリキュラムの特性に応じた教育を実施している。
- ・履修登録制度の改修を実現するために、学生へのアンケートを行い現状把握を進めた。データが集まった段階で、教学会議はじめ、学長室会議等然るべき会議での議論を深め、改修への具体的な策を提案した。学生の希望を取り入れつつ、和光ポータルの改善、SAの積極的活用、『学修の手びき』の改善を実現した。
- ・全体としては、1年間に履修登録できる単位数の上限を編入学者等も含めて50単位未満に設定し、「大学学則」および「大学院学則」、「履修規程」等に則り適切に既修得単位の認定を行うなど、単位の実質化を図り、教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っている。しかしながら、現代人間学部心理教育学科子ども教育専修幼児教育課程の1年次および2年次生に限っては、1年間に履修登録できる単位数の上限が59単位と高くなっているため、改善に向けて検討を重ねてきた。2025年度内にカリキュラムの改定を進め、履修登録上限単位数の引き下げを実施する予定である。
- ・研究科においては、あらかじめ『学修の手びき』に示した計画に基づき研究指導を実施するほか、「大学院学則」および「履修規程」等に則り適切に既修得単位の認定および学位の授与を行うなど、教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っている。ただし、教育課程の実施に関する方針の明示、学位授与方針についての指標化、客観的な測定方法の検討、研究指導計画の明示、キャリア教育の充実等の課題が残されている。
- ・学習成果の把握は、各学部、研究科が独自に行なっているが、2024年度には全学的なアセスメント・ポリシー(大学全体のポリシーおよびその下に位置づけられる学科・研究科ごとのポリシー)の策定を行った。2025年度からは、アセスメント・ポリシーに定めるPDCAサイクルに従い、学習成果の把握に基づく点検と改善を年度ごとに実施する予定である。

#### 基準5 学生の受け入れ

- ・入学者受け入れ方針は、大学全体の方針を定めたうえで、各学科・研究科において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を理解するために必要な情報を学生募集要項や本学WEBサイトにて公表している。なおWEBサイトでは、学位授与方針、教育課程編成方針も併せて公表している。
- ・入学者選抜は、入学者受け入れ方針に基づいて、学部においては総合型選抜(授業体験方式、事前課題方式、小論文方式)、学校推薦型選抜(公募制、指定校、和光高校内部推薦)、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜や、外国人留学生、海外帰国生徒、社会人、編入学生、転部転科希望者等を対象とした各種選抜を実施している。研究科では年2回入学試験を実施している。これら入学者選抜の運営は、「和光大学(大学院)入学者選抜規程」に基づき、学長の責任のもと、各学部、研究科において、入学者選抜を実施するための制度、運営体制を整備するとともに、当日の運営体制および実施方法について明確にした実施要領を作成し、受験上特別の配慮を必要とする受験生への対応を含めて、公正かつ丁寧に実施している。
- ・2025年度入試(2024年度内実施)では入学定員充足に至らなかった。特に心理教育学科子ども教育専修は5年連続、同保育コースは10年連続、人間科学科は4年連続して定員に至っていない。なお、収容定員数に対する在籍学生数は、概ね適切に管理されている。

- ・ 入学者の受け入れについては、学長室会議、広報会議、入試実施委員会、各学部教授会、研究科委員会、各学科会議等において定期的に点検・評価を行い、改善・向上に繋げている。2024 年内には今後に向けた入試広報や試験方式の改善について活発に検討され、次年度入試での実施を予定している。

#### 基準6 教員・教員組織

- ・ 初代学長・梅根悟著『小さな実験大学』所収「和光大学の教師たち」に示された求める教員像を基盤として、教員組織を適切に編制している。
- ・ 大学および大学院科目において「授業アンケート」を学期ごとに実施するとともに、全学FD研修会を定期的で開催し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上に努めている。
- ・ 各学部、研究科においては、教員・教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に努めている。

#### 基準7 学生支援

- ・ 学生支援に関する大学の方針としては、学生支援課、キャリア支援課にて安定した学生生活に向けた支援を行っている。また、留学支援、修学支援、キャリア支援、課外活動支援、サークル・部活動団体支援について、大学 WEB サイト上の通知や掲示等で学生への周知を図っている。
- ・ 学生生活支援課では、大学祭やサークル・部活動等について学生の主体性を重視すると共に、具体的な運営方法等の助言やサポートを行っている。また、学生に関する諸問題については、よりきめ細かな支援を行うため、学生支援課、学生相談センター、医務室が密接に連携を図りながら対応している。支援の必要な学生については C.C.T.(コア・クラス・ティーチャー)とも適宜連絡を取り合っている。
- ・ キャリア支援課では、低学年のうちから学生が自身のキャリアを自ら考えて選択できるよう、情報提供し、相談に乗り、サポートしている。例えば、継続的な取り組みとして位置づけている「ゼミ・授業訪問」に加え、2023 年度からは「生きる」と「働く」をテーマとしたプログラムを設置し、昨年度から学生が教員に気軽に相談できる「キャリアカフェ」を新設するなどし、低年次からのキャリア形成促進を進めている。
- ・ 学生支援の適切性については、学生生活会議、キャリア支援会議等において適宜検証している。

#### 基準8 教育研究等環境

- ・ 教育研究等環境の整備については、毎年、学長が「学長所信」で方針を示している。2021 年度からは、新教室棟建設を含むキャンパス・グランドデザインに基づき、施設設備の改善に取り組んでいる。
- ・ 研究活動の不正防止の取り組みとして、全学生に文書「研究活動における不正行為への注意」を配付し、大学院生には研究倫理の遵守に関する講習の受講を義務づけている。
- ・ コンプライアンス教育・啓発活動計画に基づき、学生・教職員向けの不正防止ポスターの掲示、研究不正に関する相談窓口・告発制度の周知、教授会で他機関での不正事例紹介による意識改革の報告などを行っている。
- ・ ティーチング・アシスタント(TA)については一部の学科で採用しているが、リサーチ・アシスタント(RA)等を含めて教育・研究活動支援体制を全学的に整備することが課題である。

- ・2024 年度に実施した主なネットワークドライブ・ICT 関連の環境整備は、AD サーバ更改、図書館棟無線 AP 更改ならびに全棟無線 AP ファームウェアアップデート、A・E・G 棟フロアスイッチ更改、Microsoft 365 A3 導入等である。認証基盤やインフラ基盤の安定性・拡張性増強が実現できたほか、サービスの幅も広がり、研究・学修面での活用が期待できる。
- ・図書・情報館を「教育研究を促す滞在型学習空間」と捉えて整備しており、リサーチスペースやプレゼンテーションルーム、メディアサロン等とともに全学的なラーニングコモンズの場として有機的に機能することを目指している。2023 年度に引き続き、2024 年度も教員有志の協力により、学生の昼休みに「よろづ相談」を開催した(不定期)。知的創造の場を広く提供することで教育研究活動の促進を図っている。
- ・情報倫理の確立を図る取り組みとして、図書・情報館が主催する学生対象のゼミ講習会、卒論講習会等で「盗作」、「剽窃」などの概念を説明し、他者の論文等を自著のレポート・論文に引用する際のルール(引用・参考文献の書き方)を指導している。

#### 基準9 社会連携・社会貢献

- ・地域連携研究センターが中心となり、大学開放フォーラム、地域・流域共生フォーラム、ジェンダーフォーラム、国際交流センターにおいて、多様な社会連携・社会貢献を行っている。特に、大学が隣接する川崎市麻生区岡上地域を中心とした地域の活性化については、「地域デザイン」「タウンマネジメント」による岡上小学校や和光小学校との農業体験や、「おかがみ寺子屋事業」における本学の学生および教員のリソースを活用した小学生の体験教室支援、芸術学科教員の社会連携研究プロジェクトによる「サトヤマアートサンポ」の定期実施などが好調である。
- ・麻生区が中心となり、岡上の住民の意見交換を行う協議会「麻生区の農と環境を活かしたまちづくり」が2022年に発足され、教職員が出席し、情報交換を行っている。
- ・「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」「地域・流域プログラム」や地域連携活動と結び付いた共通教養科目「地域デザイン」「タウンマネジメント」を開講し、教育プログラムの充実を図ることで地域社会へ貢献する人材の育成にも取り組んでいる。
- ・地域連携研究センターには、教職員・学生が地域と連携・協働しながら、地域が抱える課題やニーズに対して、その解決や新たな方向性を模索するために取り組むプロジェクト「社会連携研究プロジェクト」や「地域応援プロジェクト」の制度があり、適切な予算措置をし、さらなる社会連携・社会貢献活動を推進している。
- ・具体的な活動内容を地域社会に公表するため、2022年度から『地域連携研究センター報告集』を毎年刊行し大学 WEB サイトにおいても公開している。

#### 基準10(1) 大学運営

- ・大学運営の方針、諸規則を定め、それに則った権限付け、事務組織配置を行い、適切に運営している。
- ・大学運営に関する SD への教員の積極的な関与について、検討・改善の余地がある。
- ・予算執行の効果の検証とそれに基づく予算配分の見直しの取り組みについては、継続した課題である。
- ・運営の適切性については、各部局が PDCA サイクルを通じて毎年度行う自己点検・自己評価活動を通じて学長室会議が点検を行うほか、監査委員会が半年ごとに学長室会議の活動の監査を行っている。また、事務局会議等においても必要に応じて随時検証をしている。今後の課題としては、根拠(資料・情報)の収集と分析をより体系的に行うことが挙げられる。

#### 基準10(2) 財務

- ・ 中期計画を策定し、18歳人口が減少するなかで大学が存続していくために、学生収容定員数及び教職員数の見直し、業務の改編による支出の削減など大学の規模の適正化の検討、並びに退学・除籍者数の削減などについて今後検討することを確認した。
- ・ 学生確保による安定した収入の維持や大幅な支出削減には取り組んでいるが、抜本的な財政構造の改善と財政基盤の確立の取り組みについては引き続きの課題である。
- ・ 外部資金の獲得について、科研費の採択件数・獲得金額は横這い傾向であり、外部資金の戦略的な獲得・確保について、検討・改善の余地がある。